

2013年8月6日

アメリカ大統領 バラク・オバマ殿  
内閣総理大臣 安倍 晋三 殿  
外務大臣 岸田 文雄 殿  
防衛大臣 小野寺 五典 殿

沖縄県保険医協会  
会長 仲里 尚実

## オスプレイの強行追加配備に抗議し、米空軍ヘリ墜落 事故の原因究明と普天間基地の閉鎖・無条件返還を求 める緊急声明

8月3日日米両政府は、県民挙げての強い反対を押し切って、米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイを普天間基地に追加配備した。追加配備予定12機のうち残り10機は5日以降に移動が予定されていた。

その最中8月5日宜野座村松田の米軍キャンプ・ハンセンで米空軍嘉手納基地所属のHH60 救難用ヘリコプターが墜落、炎上した。事故機は墜落直前まで訓練をしていたという。

墜落現場から約2キロの位置には民家、学校、ゴルフ場、自動車道が点在しているが、不幸中の幸いで基地外への飛散物や人的被害は今のところ確認されていないが、復帰後、沖縄県内で発生した米軍機の墜落事故は45件目で、基地が集中する沖縄で繰り返される米軍による事故に県民は不安を募らせている。事故の発生度に米軍は再発防止の徹底を繰り返すが、今回追加配備が進むオスプレイへの不信感が高まるばかりである。

沖縄の過重な基地負担の実態とその危険性があらためて浮き彫りになった。去る4日(日)のNHKテレビでの討論会で小野寺防衛大臣が「普天間の辺野古への移転は前民主党政権が日米合意として取り決めたものである」と耳を疑う責任転嫁発言があった。

私たち沖縄県保険医協会は、県民の命と健康、暮らしを守ることを使命とする医師・歯科医師の団体として、オスプレイの強行追加配備に強く抗議し、事故機の原因究明、さらには「世界一危険」な普天間基地の閉鎖、無条件返還を求める。